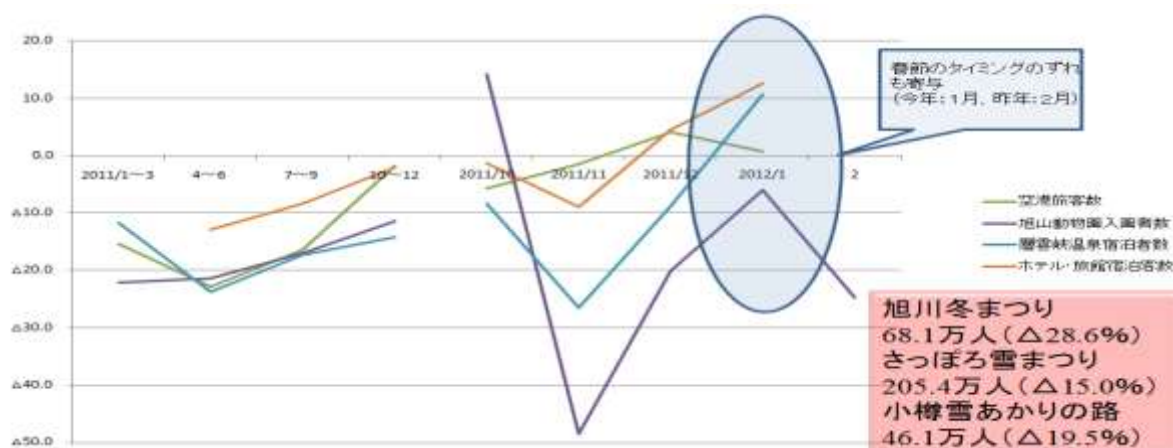


次に、観光です。四半期でみると、2011年4-6月を底に、持ち直してきています。月次でみると、かなりの振れがあります。11月に旭山動物園の冬季開園準備期間の関係から大きく落ち込んだ後、12月には回復し、1月は春節のタイミングのずれ（今年：1月、昨年：2月）や台湾スキー連盟と富良野スキー場とのタイアップから台湾を中心にインバウンド観光客が増加したことが寄与し、全体でも持ち直しました。層雲峡温泉の宿泊客数は、15か月振りに前年を上回りました。

<道北地域の観光動向>

前年比・%



1月にインバウンド観光客が全体をけん引した様子を、上川総合振興局の「道北地域の観光動向」（24年1月）でみると、2012年1月の層雲峡温泉宿泊客数は、前年に比較して4,549人増えましたが、このうち外国人宿泊客が9割（4,132人）を占めています。富良野・美瑛地区に至っては、国内宿泊客が減少したにもかかわらず外国人宿泊客が増加して全体が増加しました。

<24年1月の層雲峡地区、富良野・美瑛地区の宿泊客動向>

	宿泊客数	前年比	前年差・人	前年差・人	
				うち外国人	国内
層雲峡地区	47,120人	10.7%	+4,549	+4,132	+417
富良野・美瑛地区	25,238人	6.9%	+1,635	+1,861	-226

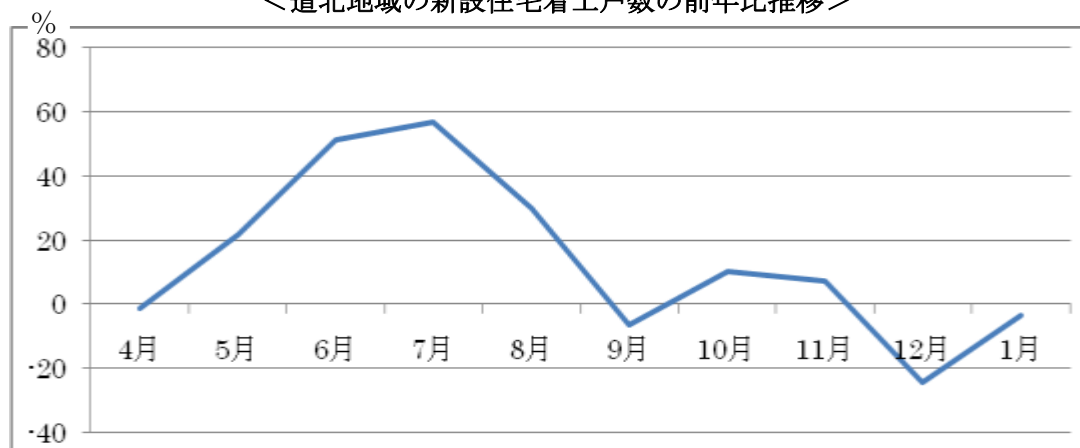
（資料 上川総合振興局）

1月の観光は特殊要因が寄与していますので、消費全体の基調については、2月の実績や3月の状況も踏まえて判断したいと思います（観光についていえば、2月の旭山動物園入園者数<Δ24.7%>は再び大幅に減少した一方、「2月に入ってもインバウンド観光客の反動減はさほどでもない」との心強い声も聞かれたところ）。

次に、住宅投資です。これまで住宅投資は、4市（旭川、稚内、網走、北見）の居住用建築確認申請床面積を利用して基調の判断を行ってきましたが、道北管内3振興局（上川、宗谷、オホーツク）の新設住宅着工戸数の統計が入手できるようになりましたので、今後はこれを使って住宅の基調判断を行うことにします。カバレッジが広いこと（4市→3振興局）と実際に新築工事が始まり、経済効果がみられるタイミングであることを重視したものです（一方、建築確認申請床面積は先行指標的性格を有します）。

下のグラフは、道北地域の新設住宅着工戸数の前年比推移です。これをみると、住宅エコポイント申請期限切れ前の駆け込み需要の影響から8月まで高い伸びを続けた後、9月に一旦伸び率はマイナスに転じました。その後10、11月と緩やかに持ち直していましたが、12月（▲24.4%）に引き続き1月（▲3.5%）も減少しました。そこで、今月は住宅については、「緩やかに持ち直している」（12月の概況で、10月の居住用建築確認申請床面積がプラスに転じたことを受け、「反動減がみられている」から基調を変更）から「持ち直しの動きに一服感がみられる」と基調判断を変更しました。なお、住宅は、足もと、「消費税増税を気にした購入相談者が増えている」、との声も一部で聞かれていますので、今後の消費税増税を巡る動きに注目しています。

＜道北地域の新設住宅着工戸数の前年比推移＞

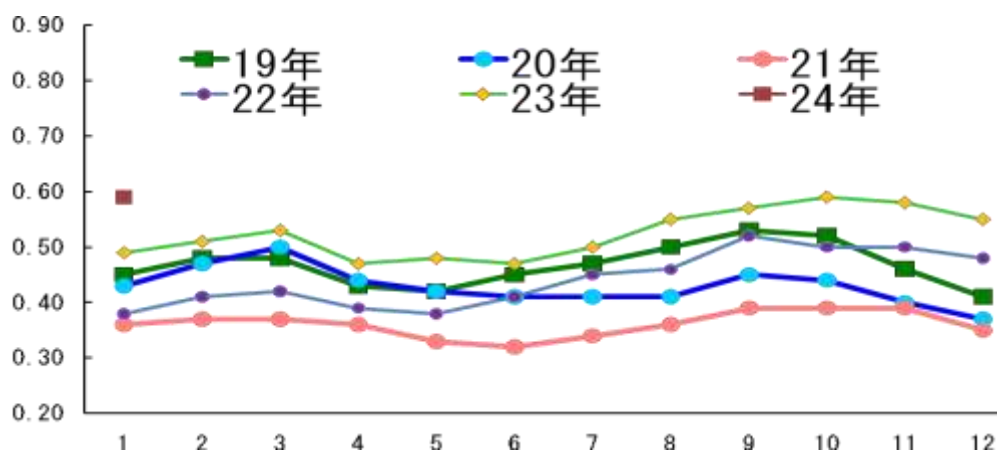


最後に、雇用情勢（改善の動きがみられており、厳しさの程度は幾分和らいでいる）についてです。

有効求人倍率は、4地区すべてで前年を上回りました。旭川地区の有効求人倍率は、0.59倍と、有効求人増加を主因に前年同月を0.10倍上回っています。下のグラフをみると、このところずっと改善傾向が続いていることが分かります。新規求人をみると、医療・福祉関係を中心に高い伸びが続いています。ただし、求人と求職との間の構造的なミスマッチ（専門的・技術的職業＜医療技術者、看護師等＞やサービスの職業＜ヘルパー等＞では慢性的な人手不足、事務的職業や生産工程・労務の職業では慢性的な人余り）が存在しており、これを割り引いてみる必要があります。また、所得環境については、中小企業を中

心に厳しい状況が続いているとみられる点も、留意が必要です（例えば、北海道中小企業団体中央会調べの2011年冬季賞与は、前年比▲5.9%）。このように雇用環境は改善傾向にあるものの、実際の雇用・所得環境を判断する上では、有効求人倍率の数字は、やや割り引いてみておく必要があります。

＜旭川地区の有効求人倍率推移＞ 倍



その他を含む個別の動きについては、[金融経済概況](#)をご覧ください。

最後に、明るい話題をひとつ。ご案内の通り、韓流ドラマ「愛の雨」の撮影が、2月末から3月上旬にかけて、旭川市や富良野地方で行われました。監督は「冬のソナタ」のユン・ソクホ氏、主演は人気絶頂のチャン・グンソクさんと「少女時代」のユナさんという大変豪華な顔ぶれです。事前にスケジュールがオープンになってなかったにもかかわらず、どうやって情報を入手したのか、大勢のファンが撮影現場に押し寄せました。ドラマの影響力を垣間見た思いです。韓国では3月下旬から放映され、国内でもTV放映が決まっています。中国映画「非誠勿擾」（邦題：「狙った恋の落とし方。」）をきっかけに道東がブームに沸いたのは、記憶に新しいところです。「愛の雨」についても、内外のファンがドラマのロケ地巡りのために、道北地方を目指してやってくることを大いに期待したいと思います。

2012年3月14日
荒木 光二郎